

東奥信用金庫

地域内企業の業況レポート
No. 121
2023年4～6月期

本レポートは、情報提供のみを目的とした当金庫の意見です。

当金庫が信頼できると考える情報源から得た各種データなどに基づいてこの資料は作成されていますが、この情報の正確性および完全性について当金庫が保証するものではありません。

〒036-8182 弘前市大字土手町81
TEL 0172-33-8404 業務部 -2023.7.31-
HP <http://www.shinkin.co.jp/toshin/>

《今回調査のポイント》

● 4～6月期（今期）業況判断DI値 全項目で改善

4～6月期の業況判断DI値は、前回調査比26.1ポイント上昇の3.1と改善し、前回予想値(▲2.4)を5.5ポイント上回る結果となった。項目別では、売上・受注で35.0ポイント上昇の18.2、売上数量が36.1ポイント上昇の17.9、利益でも30.6ポイント上昇の4.5と全項目で改善となった。5月に新型コロナウイルス感染症が5類に分類された影響により日常生活がコロナ禍前に戻りつつあり、各業種とも回復基調となった。しかしながら「エネルギー価格の高騰」や「原材料・仕入価格のさらなる高騰」が継続していることにより、利益確保については各企業とも価格転嫁や経費削減等に努力している結果となった。



業況お天気図

● 7～9月期（来期）各項目別DI値 やや悪化を見込む

7～9月期の見通し業況判断DI値は、今回調査比0.7ポイント低下の2.4とやや悪化の予想となった。項目別では、売上・受注で16.5ポイント低下の1.7、売上数量が15.5ポイント低下の2.4、利益でも7.2ポイント低下の▲2.7と全項目で悪化を見込む結果となった。

夏祭りを始めとした、今後の各種イベント開催に対して期待感を強くする業種が多くみられる。一方で、高止まり感のある「エネルギー価格の高騰」や「原材料・仕入価格のさらなる高騰」が継続していることから、厳しい見通しとなった。各企業とも経費の削減・効率化等による利益確保に努めている。また、業況が回復してきている事により「人材不足」を懸念する企業が多く、人材確保が企業の課題となっている。



業況予想お天気図



お天気図

好調 ←



→ 低調

(お天気図は、景気指標を総合的に判断して作成したものです。)

全業種総合

回答企業数291企業（回答率100.00%）

概況

～総合的業況判断DI値 前期比改善となる～

総合的業況判断DI値は、前期比26.1ポイント改善の3.1となった。

業種別での業況判断DI値は、飲食業が57.9ポイント上昇の47.4、製造業が39.4ポイント上昇の3.0、サービス業が38.1ポイントの上昇で11.9、卸売業が31.0ポイント上昇の0.0、不動産業が22.2ポイント上昇の22.2、小売業が19.8ポイント上昇で▲3.3、建設業が15.6ポイント上昇で▲10.3となった。一方で運輸業は20.0ポイント低下の10.0となり改善が7業種、悪化が1業種の結果となった。

～経営上の問題点～

業種全体で「材料価格の上昇」106先、「売上の低迷・減少」86先、「利幅の縮小」86先、「人員不足」84先、「経費の増加」70先と上位を占めた。

前回調査比、「材料価格の上昇」19先減少、「売上の低迷・減少」が10先減少、「利幅の縮小」は7先増加、「人員不足」7先増加、「経費の増加」5先減少となった。他に、「その他（新型コロナウイルス感染症の影響）」は6先減少の4先となった。

設備投資計画では、「予定あり」とした企業が44先、前期比2先増加、設備投資実施予定割合は15.1%と前期比0.7%増加した。業種別では、運輸業（土地・建物）40.0%、製造業（土地・建物・機械）24.2%、飲食業（建物・機械）15.8%、小売業（建物・機械）11.0%、建設業（機械・その他）10.3%、卸売業（土地・建物・機械・その他）6.9%となった。

資金繰りDI値は、前回調査比12.0%上昇の▲5.2と改善傾向にあり、今期借入した企業は14.8%と前回調査時（18.6%）より3.8%低下となった。

来期の見通し

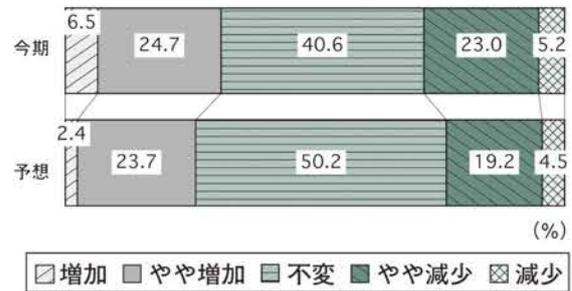
～総合的業況判断DI値 横ばいの見通し～

各業種の見通し業況判断DI値は、今回調査比0.7ポイント低下の2.4とやや悪化の予想となった。

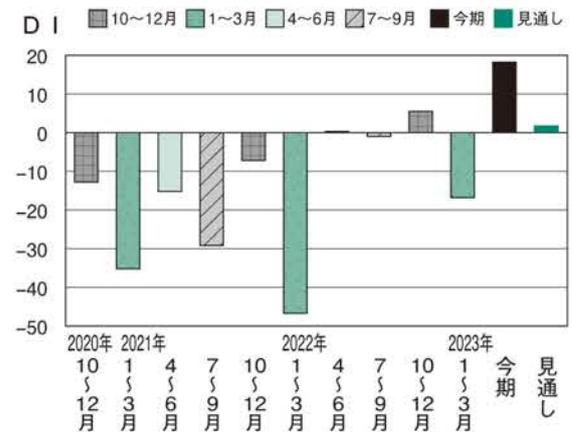
業種別では、運輸業が10.0ポイント上昇の20.0、建設業が8.6ポイント上昇の▲1.7、飲食業が0.0ポイント横ばいの47.4、不動産業が0.0ポイント横ばいの22.2、卸売業が0.0ポイント横ばいの0.0、サービス業は9.5ポイント低下の2.4、製造業も9.1ポイント低下の▲6.1、小売業も1.1ポイント低下の▲4.4と、来期の見通しは上昇が2業種、横ばいが3業種、低下が3業種となった。

今期資金手当てした先が14.8%であったが、今後資金手当て等借入を予定している先は18.6%となっている。

業況判断（全業種）



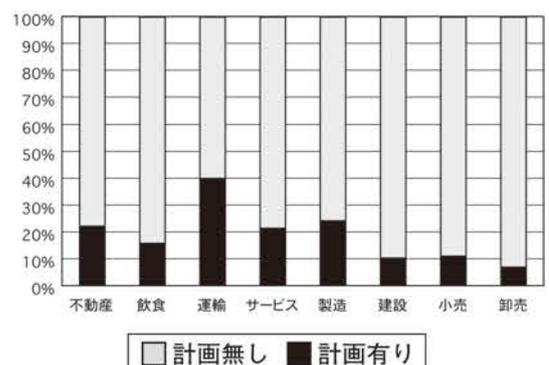
売上・受注DI値の推移



各DI値の推移



設備投資計画の有無



卸売業

回答企業29企業

概況

～業況判断D I 値 改善～

今期の業況判断D I 値は、前回調査比31.0ポイント改善の0.0と上昇し前回調査予想値(▲6.9)を上回る結果となった。項目別では、売上・受注で31.0ポイント上昇の6.9、売上数量が24.1ポイント上昇の6.9、利益でも38.0ポイント上昇の3.5と全項目で改善となった。

分野別の状況

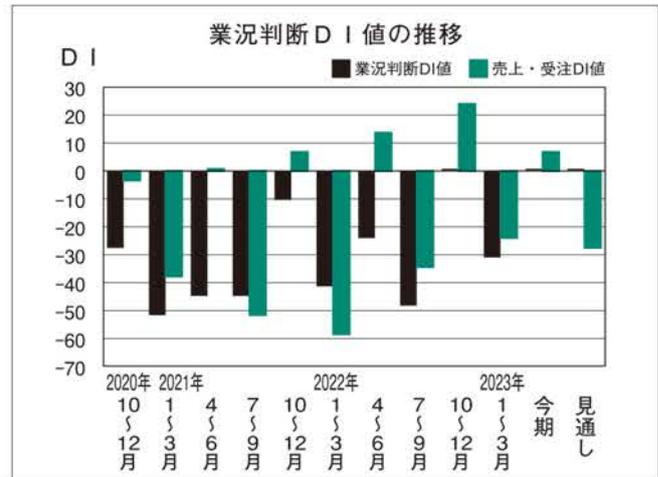
～総合的業況は改善で推移～

酒類等卸売業は、各イベントの開催・ホテルでの宴会等も再開しており、売上回復基調にあるが、コロナ前には至っていない。
 食料品卸売業は、売上高はやや増加となったが、仕入価格や経費の増加により、利益圧迫し業況はやや悪化となった。
 衣料品卸売業は、前期に比べると販売数量は増加したものの原材料の価格の高騰から利益は横ばいに推移した。
 建設・建設資材卸売業は、仕入価格上昇するが、価格転嫁を図ることで売上増加し業況順調に推移したが、利益は横ばいで推移。
 業種間格差もあるもののアフターコロナの動きが活発となり、総合的な業況は改善傾向にある。但し、「材料・仕入価格上昇」「経費の増加」「人員不足」など不安定な材料も多く今後の動きを注視している。

来期の見通し

～業況判断D I 値 横ばいの見通し～

来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比0.0と横ばいの見通しである。項目別では、売上・受注で34.5ポイント低下の▲27.6、売上数量も34.5ポイント低下の▲27.6、利益でも38.0ポイント低下の▲34.5と全項目で大幅悪化の見込みとなった。
 季節的イベントの開催に向けて期待感が大きい「仕入価格の高騰」「燃料費、電気料」等の経費増加が見込まれる事、りんご卸売業については定期的に数量・販売が落ち込む時期となることからD I 値は大きく落ち込む見込みとなった。



小売業

回答企業91企業

概況

～業況判断D I 値改善～

今期の業況判断D I 値は、前回調査比19.8ポイント上昇の▲3.3、前回調査予想値(▲23.1)を上回る結果となった。項目別では、売上・受注で13.2ポイント上昇の2.2、売上数量が14.3ポイント上昇の1.1、利益では17.6ポイント上昇の▲5.5となり全項目で改善となった。
 業種間格差があるが、仕入価格高騰に対する価格転嫁に苦戦している業種が多いものの、厳しい状況を脱した様子である。

分野別の状況

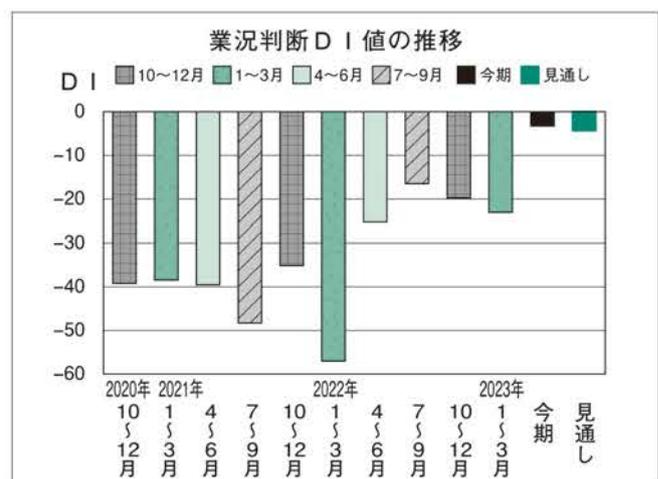
～総合的業況はやや改善で推移～

酒類小売業は、さくら祭りのアルコール持込が可能となったことやホテルでの宴会が可能となり、売上が増加した。
 食料品小売業は人件費の増加や原材料等の値上げにより利幅が減少し、厳しい状況が続いているが、徐々に価格転嫁を進めている状況にある。
 自動車販売は軽自動車徐々に納車量が改善。中古車販売は車両価格が落ち着いてきたものの、在庫は高値仕入もあり利益の確保に影響を及ぼしている。
 燃料等小売業は、原油価格高騰により仕入価格が上昇、ガソリン販売は変化ないが、灯油の販売が季節要因により減少した事から売上・利益とも減少傾向となる。
 コンビニにおいては来店客が増加し、さくら祭り期間も集客の落ち込みがなく、今期は高水準で推移した。

来期の見通し

～業況判断D I 値 やや悪化の見通し～

来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比1.1ポイント低下の▲4.4の見通しである。項目別では、売上・受注で▲1.1ポイント低下の1.1、売上数量が1.1ポイント上昇の2.2、利益は5.5ポイント上昇の0.0となった。
 各種イベント開催に対する期待感の見通しとなったが、来期についても、仕入価格のさらなる高騰が予想され、価格転嫁に苦慮する業種が多く、業種間での格差が継続する見込みとなった。



建設業

回答企業58企業

概況

～業況判断D I 値 全項目改善～



今期の業況判断D I 値は、前回調査比15.6ポイント上昇の▲10.3と改善したが、前回調査予想値(3.5)を下回る結果となった。項目別では、売上・受注で60.3ポイント上昇の15.5、売上数量が62.0ポイント上昇の17.2、利益でも31.1ポイント増加の▲8.6と全項目で改善となった。

今期は公共工事の受注は少ない時期ではあるものの、一般住宅関連の受注は横ばいで推移。原材料・燃料費の高騰あるも価格転嫁により業況は改善されている。

分野別の状況

～総合的業況はやや改善で推移～

土木工事業は、災害工事の受注もあり売上が確保できた。ほぼ全ての材料費と燃料費の高騰で、利益は減少傾向にあり経費削減に努めている。

建設工事業は、一般住宅は資材・燃料・人件費の高騰により建設価格は過去最高となっている。

舗装工事業は、受注安定し売上・利益とも好調に推移した。

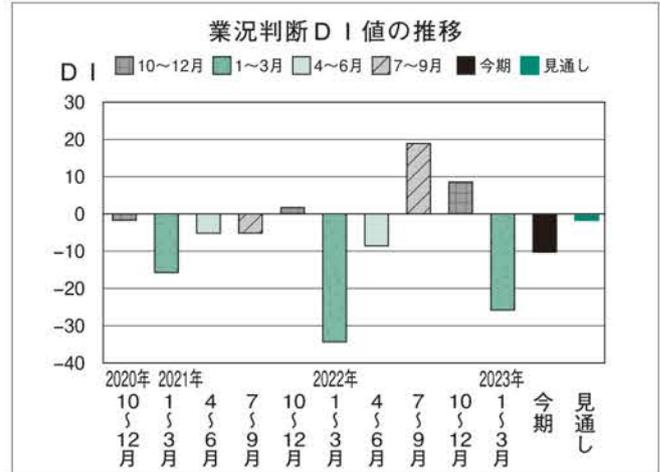
来期の見通し

～業況判断D I 値 全項目で改善の見通し～



来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比8.6ポイント上昇の▲1.7と改善の見通しである。項目別では、売上・受注で12ポイント低下の3.5、売上数量が12ポイント低下の5.2、利益は横ばいで▲8.6となった。

業況は大きな変化なく推移する見通しであるが、「材料費の価格」「人材不足」等問題もあり注視している。



製造業

回答企業33企業

概況

～業況判断D I 値 全項目で改善～



今期の業況判断D I 値は、前回調査比39.4ポイント上昇の3.0と改善したが、前回調査予想値(9.1)を下回る結果となった。項目別では、売上・受注で45.5ポイント上昇の30.3、売上数量が54.5ポイント上昇の30.3、利益でも45.4ポイント上昇の12.1と全項目で改善した。

アフターコロナの影響を受け消費が回復基調にあるが、原材料および燃料費の高騰が続いている。業種間格差があるが、既に小規模の価格転嫁が図られ、総合的業況は大幅に改善された。

分野別の状況

～総合的業況 改善で推移～

食品製造業は、さくら祭りや各種イベントの開催から概ね売上増加となった。原材料価格高騰により収益圧迫、商品価格改定等問題はあるが業況は改善傾向にある。

砕石製造業は、昨年の豪雨災害復旧工事が本格化し受注が多く堅調に推移。受注と生産量が同程度と在庫確保が難しい状況。

衣料、縫製業は、縫製原材料も高騰しており、売上は増加したが、利益は減少した。業界全体では在庫過多の状況となり6月の売上は減少。

鉄鋼加工製造業は、一定の受注はあったものの、原材料が依然として高値で推移していることから、利益減少となった。

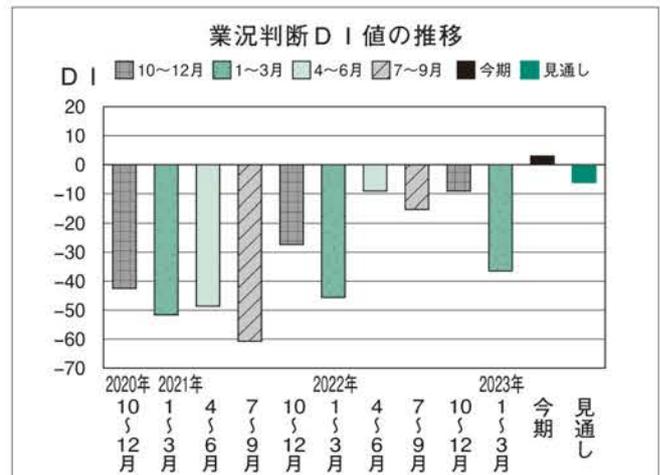
来期の見通し

～業況判断D I 値 やや悪化の見通し～



来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比9.1ポイント低下の▲6.1とやや悪化の見通しである。項目別では、売上・受注で33.3ポイント減少の▲3.0、売上数量が33.3ポイント低下の▲3.0、利益でも21.2ポイント低下の▲9.1と全項目で悪化の見込みとなった。

アフターコロナによる各種イベント開催への期待感はあるが、原材料価格高騰と経費増加が継続しており、価格転嫁による値上げが売上高に与える影響を懸念している。



サービス業

回答企業42企業

概況

～業況判断D I 値 全項目で大幅改善～



今期の業況判断D I 値は、前回調査比38.1ポイント上昇の11.9と改善し、前回調査予想値(9.5)を上回る結果となった。項目別では、売上・受注で54.8ポイント上昇の31.0、売上数量が45.2ポイント上昇の23.8、利益でも40.5ポイント上昇の11.9と全項目で改善となった。

新型コロナウイルス感染症の影響は落ち着きを見せ、業種間格差はあるが総合的業況改善で推移した。

分野別の状況

～総合的業況は改善で推移～

新型コロナウイルス感染症の5類引下げの影響は大きく、大幅な業況改善となった業種が増加した。

さくら祭り、ゴールデンウィーク等旅館・ホテル業は宿泊やホテルでの宴会等増加し、大幅に改善した。

クリーニング業は衣替えの時期もあったため売上は増加。材料価格は高騰しているが、価格の値上げ実施により利益確保。

自動車整備・車検は、売上・利益とも確保されたが、人材不足の状況が続いており、人員確保が厳しい状況である。

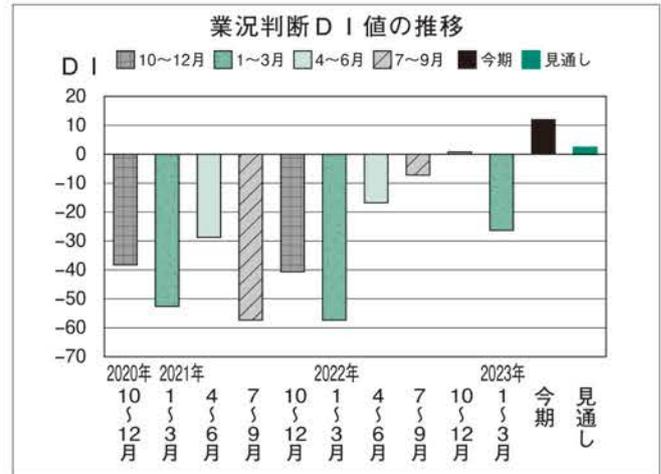
自動車教習所は、入校者数が減少する時期であるが、高齢者講習に人員配置できなかったこともあり売上は減少。

来期の見通し

～業況判断D I 値 やや悪化の見通し～



来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比9.5ポイント低下の2.4とやや悪化の見通しである。項目別では、売上・受注で33.4ポイント低下の▲2.4、売上数量が26.2ポイント低下の▲2.4、利益でも11.9ポイント低下の0.0と全項目で悪化の見通しとなった。夏祭り等の各種イベントからホテル業の予約状況は良好であるが、季節要因により売上が落ち込む業種もあり、前期比ではやや悪化の見通しである。



運輸業

回答企業10企業

概況

～業況判断D I 値 良好に推移～



今期の業況判断D I 値は、前回調査比20.0ポイント低下の10.0と悪化し、前回調査予想値(20.0)を下回る結果となった。項目別では、売上・受注で10.0ポイント上昇の20.0、売上数量が20.0ポイント上昇の30.0、利益でも30.0ポイント上昇の10.0と項目別では改善となった。

業種間格差があるが、有袋ふじの輸送を中心に受注は良好に推移したが、燃料費高騰により利益確保に各企業とも努力している。

分野別の状況

～総合的業況は良好に推移～

旅客運送業は、さくら祭り・ゴールデンウィーク等国内ツアー再開により、売上確保できた。

貨物運送業は、生鮮野菜の出荷量が増加傾向にあり売上増加している。

燃料価格高騰が利益を圧迫している中、価格転嫁できた企業とできなかった企業では利益に格差がでている。

一般区域貨物では、東日本大震災関連工事が一段落したことによる、売上減少の影響もあった。

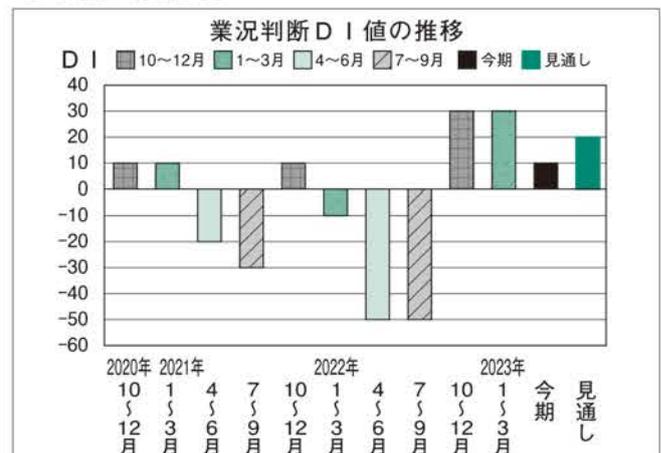
来期の見通し

～業況判断D I 値 やや改善の見通し～



来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比10.0ポイント上昇の20.0とやや改善の見通しである。項目別では、売上・受注で10.0ポイント低下の10.0、売上数量が20.0ポイント低下の10.0、利益では10.0ポイント上昇の20.0となった。

燃料費高騰や経費増加が不安材料ではあるが、各企業とも経費削減や効率化を主に利益確保に取り組んでいる。りんごについては受注が落ち込む時期となるため売上・数量はやや減少の見通し。



飲食業

回答企業19企業

概況



～業況判断DI値 全項目で大幅改善～

今期の業況判断DI値は、前回調査比57.9ポイント上昇の47.4と改善し、前回調査予想値(10.5)を上回る結果となった。項目別では、売上・受注で26.3ポイント上昇の57.9、売上数量が36.9ポイント上昇の63.2、利益でも26.3ポイント上昇の42.1と全項目で大幅改善となった。

新型コロナウイルス感染症の5類への緩和が影響し、飲食店での小宴会・個人客はコロナ禍前に戻りつつあり、業況は大きく改善した。仕入価格・光熱費等の上昇に伴う価格転嫁も少しずつ進んでおり、収益も改善されている。

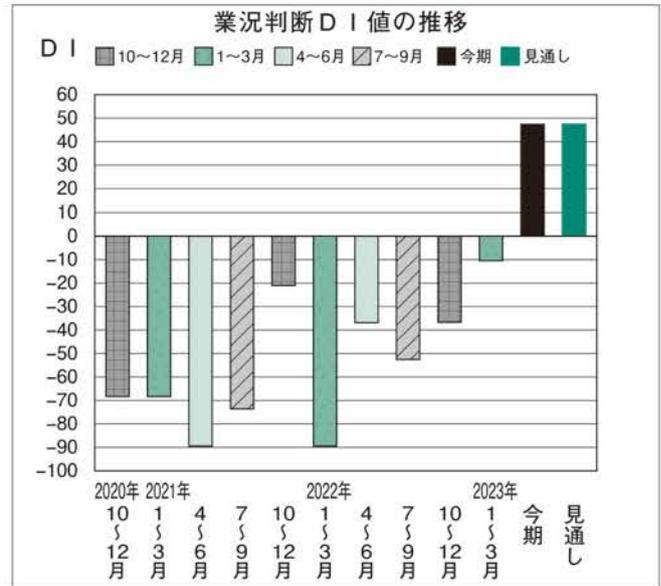
来期の見通し



～総合的業況判断では横ばいの見通し～

来期の見通し業況判断DI値は、今回調査比0.0ポイントで47.4と横ばいの見通しである。項目別では、売上・受注で5.3ポイント低下の52.6、売上数量が10.6ポイント低下の52.6、利益でも10.5ポイント低下の31.6と全項目で悪化の見込みとなった。

夏祭りや季節要因から売上増加見込めるものの、仕入価格の上昇、光熱費等の値上がりにより利益については不透明感があり、総合的には横ばいの見通しとなった。



不動産業

回答企業9企業

概況



～業況判断DI値 改善で推移～

今期の業況判断DI値は、前回調査比22.2ポイント上昇の22.2と改善したが、前回調査予想値(33.3)は下回る結果となった。

項目別では、売上・受注で22.2ポイント上昇の44.4、売上数量が33.3ポイント上昇の44.4、利益では44.4ポイント上昇の44.4と全項目で改善となった。

新生活に向けて契約件数が増加しており、賃貸契約物件の動きが活発に推移している。また、価格高騰により建売物件への問い合わせが多く、総合的業況は改善となった。

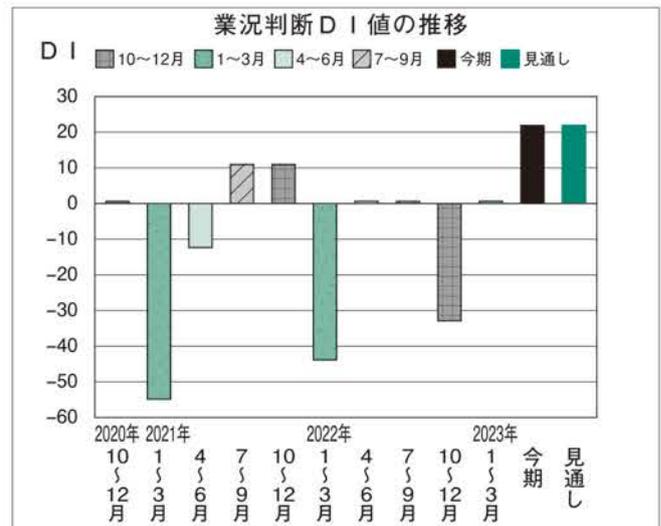
来期の見通し



～総合的業況 横ばいの見通し～

来期の見通し業況判断DI値は、今回調査比0.0ポイントで22.2と横ばいの見通しである。項目別では売上・受注で33.3ポイント低下の11.1、売上数量が33.3ポイント低下の11.1、利益でも22.2ポイント低下の22.2と全項目でやや悪化の見込みとなった。

来期は、今期に比べ業況は落ち着く時期となる。物件価格は高騰しているが、総合的業況は横ばいで推移すると見込んでいる。



調査要領

- 調査時期 2023年6月下旬
- 調査地域 当金庫営業区域7市町村(弘前市、黒石市、平川市、五所川原市、大鰐町、藤崎町、田舎館村)
- 調査方法 上記地域内291社から当金庫営業店の調査員による聞き取り調査。
- 分析方法 各質問事項で、変化なしとした回答部分を除いて、「増加(上昇)」[やや増加(やや上昇)]したとする回答と、「減少(下降)」[やや減少(やや下降)]したとする回答の構成比との差(判断D.I.)を中心に分析を行った。